

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、でごいちを守り続け、整備・清掃活動が続ける入山瀬公園SL保存会の皆さんを紹介いたします。

入山瀬公園SL保存会

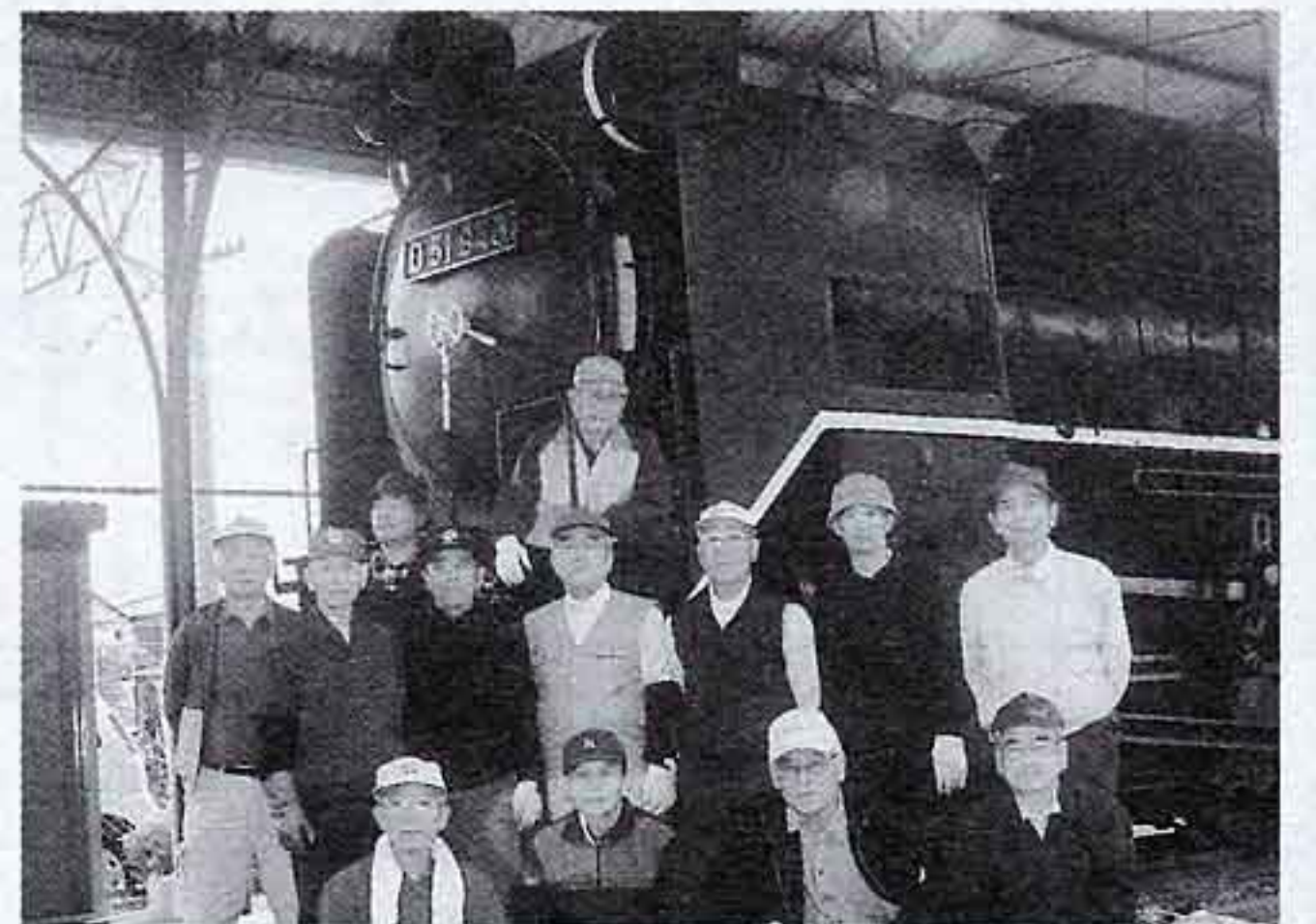
エスエル

入山瀬公園SL保存会は、国鉄OB会富士支部のメンバーのうち約九十人で構成されています。会員の皆さんは全員七十歳以上で、平均年齢は七十七歳。

メンバーは交代で毎年四月、七月、十月、一月の最終日曜日に三時間くらいかけて、入山瀬公園にあるでごいち（D51蒸気機関車）のさびを紙やすりで落とし、油をつけて布で磨き上げたりと整備・清掃活動を行っています。

入山瀬公園は、身延線入山瀬駅のすぐ西側に位置し、昭和五十二年に開園。それ以来活動を続ける同保存会は、ことしで発足二十五周年を迎えます。

昭和六十年から会長を務め、現在も活動を続けている下村博俊さん（久沢）は、「子どもたちが遊びに来て、喜んでくれることがとてもうれしいです。会員も活動を楽しくして、清掃が終わると、客車を図書室に改装してあるのでごいち文庫で話



▲清掃活動をしているSL保存会の皆さん

をします。実際に機関車を運転していた人もいますし、昭和十年ころは身延線でも機関車が走っていて、昔話に花が咲きます。そして、命ある限りでごいちを守り、頑張りましょうという話になります。残念なことは、機関士室に時々ごみが捨てられていることです。そのようなときは、とても悲しいですね」と話してくれました。

下村さんや近くに住む会員は、定期的な活動以外にも月一程度の、さびないよう油を差すなどの活動も行っています。でごいちをまるで自分の子どものようなにかわいがり、愛着を持っている様子がうかがえます。

今月の最終日曜日も、公園ではでごいちを愛する皆さんの姿を見ることができそうです。



ベンチプレスで
日本新記録を樹立

福島 勇輝さん

(吉原高校1年 柚木)

ベンチプレスとは、台にあおむけになった姿勢でバーベルを胸から真上に両手で押し上げる競技です。

福島さんは、ことしの三月、東海四県中部日本ベンチプレス大会、十四〜十八歳の少年が競うサブジュニアの部、六十七・五キログラム級で百二十キログラムを持ち上げ、見事日本新記録を出しました。

父親が経営しているジムで小さいころから遊んでいて、バー



▲ジムで練習に励む福島さん

ベルは遊び道具だったそうです。小学校三年のときに初めて大会に出場し、二位を獲得。メダルをもらえることがおもしろくなり、楽しみながら練習してきました。本格的に練習を始めたのは中学二年のころ。学校の授業でベンチプレスを友達に披露したことがきっかけでした。

福島さんは、「ベンチプレスの魅力は、今までより重い物を持ち上げられるとうれしくなるところ。今は百三十キログラムを上げることができず。日ごろは、体を大きくしていくことを目的にトレーニングをしています。大会前は、一日約二時間の練習を行っています。高校卒業までに百五十キロを持ち上げられるようになりたいですね。来年からボディビルにも挑戦する予定です」とさわやかな笑顔で話してくれました。これからの活躍も期待されます。

